

巻 頭 言

JFE スチール 常務執行役員

赤木 純一



この度、2011年8月以来11年半ぶりに販生流（販売・生産・物流）分野に焦点を当てた特集号を発行する運びとなりました。JFE スチール内には、販売・生産・物流を担当する部署が個別設置されておりますが、これらの部署を横断した販生流の一貫管理を実現すべく、販生流の各部門に加えてIT部門・研究部門をメンバーとした販生流技術部会という会議体を持ち、地区部門を跨いだ連携強化・全体最適を目指す取り組みを行っております。

近年、鉄鋼業を取り巻く外部環境は急激かつ大きく変化しています。世界的には、アジアを中心として競争の激化が進んでおり、また気候変動問題対策としてのCO₂排出量削減の取り組みは世界共通の喫緊の課題となっています。国内に目を向けると、少子高齢化・人口の減少に伴う労働力の不足が進んでおり、自動化・省力化を通じた労働生産性の向上も急務です。

また、JFE スチール内部における変化として、2023年度には東日本製鉄所京浜地区の上工程（製銑・製鋼）および熱延設備の休止を予定しております。京浜地区は、主として建材向け厚板や鋼管を製造する拠点として、他拠点から半製品の供給を受けて製造する体制に移行いたしますが、その円滑な運用のためには拠点間の連携強化や、物流面での効率化を一層進めていく必要があります。

JFE スチールでは、こういった様々な変化に対応すべく、各分野での技術力・競争力の向上に努めております。これまでもJFE 発足以来、デジタル技術を活用した自動化・省力化や、ベテランの経験や勘の情報蓄積・見える化に取り組んでおり、本特集掲載の論文でもクレーン運転の自動化等の具体例に関して述べております。今後もAIやビッグデータをはじめとする先進的技術を積極的に活用し、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進してまいります。

また、気候変動問題への対応に関しては、2050年のカーボンニュートラルに向けた“JFE グループ環境経営ビジョン2050”を策定いたしました。持続可能な社会の実現に向け、CO₂排出量の削減・社会全体のCO₂削減に貢献できる各種技術開発を進めグリーントランスフォーメーション（GX）に取り組んでまいります。

一方、DX・GXのような、仕事の仕組み・鉄鋼業としてのビジネスモデルの変革の中にあっても、変わらないものもあります。最たる例がお客様の満足度（CS）の重要性であり、その追求には Quality・Cost・Delivery・Development（QCDD）の向上を図っていくことが必要です。この点、販売・生産・物流分野と関連深い活動を取り上げますと、製造工期・輸送工期の短縮が挙げられますが、これに関しても過去地道な工夫も含め各種活動を積み重ねてまいりました。引き続き、こうした着実な活動に取り込むとともに、先進的技術の活用も行ってまいります。諸工期の短縮は、タイムリーなデリバリー対応を行う上での武器となるだけでなく、在庫低減によるコスト競争力の強化やキャッシュ効率化にも繋がると考えています。

あらゆる環境変化へ迅速・柔軟な取り組みを実行するとともに、社会へ貢献し変わらずお客様に選び続けていただけるよう、今後も販売・生産・物流部門一丸となって競争力の向上に取り組んでまいります。